

校 園 名：静岡大学教育学部附属特別支援学校

所在地：〒420-0885 静岡県静岡市葵区大岩町1番15号 電話番号：054-247-2811

記載日：平成28年5月20日 記載者：吉田幸弘 記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

本校の特色は、知的障害のある児童生徒が社会参加に必要な能力・態度を身につけることを目指して小学部、中学部、高等部の12年間にわたる一貫性、系統性のある教育を行っているところにある。この基本理念は、めざす児童生徒の姿として『生活を切り開く人』という言葉に込めて学校全体で共有している。また、静岡大学教育学部の附属学校としての特性を活かし、教育実習校として特別支援教育を担う人材養成に力を尽くしているほか、大学の教員との連携や大学施設を活用した学習活動など、今後の特別支援教育の充実・発展を見据えた積極的な研究活動を行っている。さらに、特別支援教育に関する教育相談や研修会の開催など、本学部附属学校園はもとより地域における特別支援教育のセンター的機能を担うとともに、本校の教育研究成果の積極的な社会還元を図っている。

貴校の卒業生の活躍状況について：

本校の高等部を卒業した生徒のうち約3分の1は一般企業に就労し、3分の2は福祉的な就労をしている。就労先は、製造、サービス、物流、農業など様々で、幅広い分野で活躍している。近年静岡大学の理解と協力を得て、附属図書館や学内の清掃業務に就労している卒業生が3名いる。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

現在、3分の1の教員は市町からの人事交流で、3分の2は県立の特別支援学校からの人事交流で配置されている。市町の小中学校へ戻った教員は特別支援教育のコーディネーターや特別支援学級の担当教員となり、地域の中心となって特別支援教育の推進を担っている。また、県立学校へ戻った教員は、学部主事、教務主任、研究主任など各校の学校運営を支える役職に就いている。さらに県教育委員会の事務局や総合教育センターの指導主事としても活躍している。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

○「研究協議会」と「研究フォーラム」

毎年 11 月に本校の教育研究の成果を発表する「研究協議会」を開催し、翌日には大学の教員や県内外の特別支援教育に携わる方々の参加を得て、「研究フォーラム」を開催している。前者は本校の教育研究の概要説明や公開授業を通して本校の実践的取組を広く関係機関に紹介する機会として、また後者は、特別支援教育に関する今日的課題に関する討論や福祉事業所、大学・学部など校外の専門機関との連携協力に関する意見交換・学習の場として、いずれも有効に機能している。

○大学や地域の資源を活用した教育実践

小学部から高等部まで、校外学習で大学の人材や施設を活用している。大学・学部の教員による特別講義や農学部実習園での体験学習などを実施したり、高等部では学内の図書館や食堂などの施設での職場実習を実施したりしている。大学と協働、連携する学習を取り入れることで、多様な人材を活用した専門性の高い、幅広い教育実践を行うことができる。

○小中高の一貫教育

小学部、中学部、高等部の 12 年間にわたる一貫性、系統性のある教育を行っている。また、進路学習や特別活動（縦割りの活動：ふれあい活動）等において、小中高で同じねらいをもって学習に取り組むことで、系統性のある教育実践を行うことができる。

○交流及び共同学習

小学部は附属静岡小学校と、中学部は市内特別支援学級と、高等部は静岡城北高校との交流活動を行っている。また、小中学部では希望者を対象に居住する地域の公立小中学校への居住地校交流を実施している。これらの活動では、同世代の友達とのかかわりや生活経験を広げる中で、社会性を育み、互いの良さに気づき、思いやる気持ちを育てることに繋がっている。

○宿泊研修施設「ゆうゆう館」の活用

小学部 1 年生から高等部 3 年生まで、自立に向けた学習の一つとして各学年が宿泊研修施設「ゆうゆう館」での宿泊学習を行っている。学年ごとにねらいを押さえて取り組むことでポイントを絞った段階的な指導を行うことができ、学んだことを家庭に返して定着できることを目指して取り組んでいる。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

○特別支援教育のセンター的役割

静岡市教育委員会の協力を得て、市内公立小中学校の特別支援学級での有効な実践情報を「Everyone」という資料として公表し、通常の学級、通級指導教室、特別支援学級、特別支援学校へ情報発信している。内容には大学の特別支援教育担当教授のコメントも添え、大学ともつながる実践事例となっている。また、巡回相談、支援会議への参加、特別支援教育に関する講演会の開催等を行っていることから、地域の学校（本学の附属学校園を含む）の特別支援教育に関する相談窓口や情報発信を行う場となっており、この点で地域の諸学校からの期待が近年とみに高まっている。

○ネットワークの拠点的役割

本校の立地条件の良さから、県内の特別支援教育に関する各種研修会や会合の場となっている。（研修、体育、文化、学校給食、就労など）本校が主催する講演会や研究フォーラム以外にも様々な企画が本校で開催されていることから、本校が地域の特別支援教育ネットワークの拠点となっているほか、本校の職員にとっても研修機会の充実を図る意味で効果大きい。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

近年、特別支援教育に対するニーズは益々高まってきており、静岡県においても特別支援教育の分野で児童生徒数の増加に対応する教員の養成が追い付いていない現状がある。本校は静岡大学教育学部附属特別支援学校として今後とも特別支援教育専攻の学生を対象とする教育実習の充実を図ることはもちろん、教科教育など他専攻の実習生も多数受け入れていくことで、これからの特別支援教育全体の底上げに果たすべき重要な使命がある。また、特別支援教育に関する実践研究の分野においても、静岡大学との連携を通して先駆的な取組を行い、一人ひとりの教職員がそれらの成果を積極的に教育研究論文の形にまとめ、研究の経過と成果を様々な機会を活用して公開している。これらの成果を地域へと発信し互いに研鑽しながら今後追求すべき課題を明らかにし、その解決に共同して取り組むなど本校と地域諸学校とが相補的・互惠関係を発展させることを通して地域の教育力や専門性の向上が図られることが期待される。